

これだけは知っておきたい！用語集

日本の文化には、暦や神様との結びつきが強いものも多くあります。これらの用語について知ると、日本の文化への理解がより深められます。「日本の季節を美味しく楽しく遊文化」に出てくる用語等について、簡単に説明をつけたので、ぜひ目を通してみてください。

「暦」

時間の流れを年・月・週・日といった単位にあてはめて数えるように体系づけたもの。

「太陰暦」

月の満ち欠けの周期(約29.5日)を単位とした暦のこと。太陰暦には1年という考え方はない。

「太陽暦」

地球が太陽を周る周期(約365日)を単位とした暦のこと。1年を約365日として、12ヶ月に分ける。

「太陰太陽暦」

太陰暦を基に、太陽暦の1年の考え方を取り入れて、季節を反映するようにしたもの。日本では明治5年まで使われていた。

「グレゴリオ暦」

1582年にローマ法王グレゴリウス13世により施行された暦で、太陽暦の一種。日本では1872年(明治5年)に採用された。

「旧暦」

日本ではグレゴリオ暦が明治5年から使われているが、それ以前に使われていた太陰太陽暦のことを一般に旧暦と呼ぶ。

「二十四節気」

1年を24等分して、季節を表す名称を付けたもの。12の節気(立春、啓蟄、清明、…)と12の中気(雨水、春分、穀雨、…)が交互にくる。

「七十二候」

1年を72等分して、季節を表す名称を付けたもの(東風解凍、黄鶯睨睨、魚魚氷、…)。二十四節気の各一気をさらに3つに分ける。

「暦の上では〇〇」

〇〇には二十四節気の名が入ることが多い。

「和風月名」

旧暦で多く使われていた各月の名称。睦月、如月、弥生…。

「節句」

季節の節目となる日のこと。

「年神(としがみ)さま」

元旦になると新年の幸せをもたらすために家に来てくれる神様のこと。歳神(としがみ)、正月(しょうがつ)さま、年徳神、歳徳神(としとくじん、とんどさん)とも呼ばれる。

「土用」

立春・立夏・立秋・立冬のそれぞれの直前の18日間を指す。